

Freedom



東日本大震災、原発事故、豪雨等により被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。

2面記事中の「車椅子バスケットボール」とは、競技用の車椅子を用いてプレーするスポーツで、障害の状況によりクラス分けがされています。執筆者が詳しく調べてくれたのですが、紙面の都合で載せられず…。力作ぞろいで次号にまわった皆さんもご容赦ください。



ろうろう者劇団のことを知っていますか？

～奈良ろうろう者劇団「大仏も笑う会」へのインタビュー～

香芝高等学校 ボランティア部

私たち香芝高等学校ボランティア部は、二〇一四年三月三十日に、かしはら万葉ホールで開催された「わたぼうし糧原コンサート」にスタッフとして参加しました。わたぼうし糧原コンサートは、障害のある人たちが「心の詩を」と呼ばれる命の尊さや人間のすばらしさを込めた詩に曲をつけ、音楽にのせて歌い発表するということを中心とするコンサートで、今回で第三十二回目の開催になる長い歴史をもっています。その中で、ゲストとして奈良ろうろう者劇団「大仏も笑う会」が、「ひかり公園物語」という劇を上演されました。「大仏も笑う会」の劇は、聴者の方と聴覚障害者の方が、舞台の上で手話と身振りで演じ、セリフは舞台の脇に控えている方が、劇団員の口の動きに合わせて、声を当てていました。上演が終わった後、片付けに忙しそうにしている団員の方にインタビューをさせてもらいました。

奈良ろうろう者劇団「大仏も笑う会」は、二〇〇〇年六月に奈良県で結成された聴者九名と聴覚障害者九名からなる劇団です。インタビューをさせていただいた街



（つじさんは聴覚障害者の方でしたが、手話をしてくださる劇団員の方を介してお話を聞くことができました。まず、このような聴覚障害者の方が

加わる劇団が、全国にどのくらいあるのかお聞きしました。思っていたよりもずっと少なく、全国に八、十の劇団しかないとのことでした。私は当日上演された劇を見て、本当に聴覚障害者の方が加わっているのかなと思えました。台詞や効果音、音楽に合わせて全員が動き、踊りまでしていたからです。そこで、聴者の方と聴覚障害者の方が一緒に劇をする中で苦労することをお聞きしました。一番の苦労は、働ながら練習をしていくということでした。それぞれが仕事を持っているため、集まって練習をすることが困難だという理由でした。私は劇を実際に見て、「このようならばらしい劇をするための劇団が、なぜ全国でこんなに少ないのかな」と思っていました。一つのことを実行するには大きな努力が必要になるということを知りました。

それに加え、リズムや音に合わせて全員が動くためには、どのようにしたらいいのかなということもお聞きしました。そのコツは、音を使うのではなく、テンポで合わせるというものでした。しかし、テンポを合わせた上で音楽や効果音にも合わせなければならぬと

いうことは、聴者だけで演じる劇よりも時間がかかり、苦労も大きいのだらうなと感じました。

お話を聞いて、このように劇団が全国に少ない理由



もわかつた気がしました。しかし、劇で演じられている皆さんが、とてもいきいきとされていたのを見て、ぜひ劇をこれからも続けていっていただきたいなと思いました。今後も機会があれば、今回参加できなかった部員も含めてボランティアとして関わっていききたいと思いました。

(香芝高校 尾崎 誠太)
(〃 常盤 健太)

※「聴覚障害者」「健聴者」「ろう者」「聴者」等呼び方について

一般的に「聴覚障害者」とは、聴覚に障害のある（耳が不自由な）人のことである。「ろう者」「難聴者」「中途失聴者（ちゅうとつしちょうしき）」「老人性難聴者」を含む。ただ、「ろう者」でなくても、ろう学校卒業生や日本手話使用者、ろう社会に所属している人が、自分のことを「ろう者」と表すことが多く、「障害」という言葉が含まれているのを嫌う人や聞こえない自分を肯定している人も「ろう者」を使っている。また、「健聴者」とは、聴機能（ちようきのう）に障害のない（「健常」な）人のことをさすが、「健常」の意味に違和感を持ち「聴者」を使用している団体も多い。この劇団も「ろう者」「聴者」を使用している。従って、この劇団が使用している「ろう者」「聴者」という言葉と、内容によって「聴覚障害者」という言葉を使用した。（顧問註）

高解研 研修・交流会 参加体験記

※今年度一回目の研修・交流会は、六月十五日（日）桜井市まほろばセンターで、八校二十六名の参加により開催されました。当日の様子をレポートしてもらいます。

第一回の高解研

研修・交流会を終えて

私が高校に入学してから一ヶ月が経ち、「Freedom」編集部員 大募集！とかがれたポスターを見て、「私の経験が此処で生かせるかもしれない」と思い、直ぐに行動に移そうとしました。その時、担当の先生から「スタッフ会議の前に高解研の研修会があるけど、ついでに行く？」と声を掛けられた。高解研はどういうものか全く考えもしないまま当日参加し、私は驚きました。何故ならば沢山の高校の面白い人と出逢い、人権の在り方などを話し合えることに感動したからです。

当日にやったことは、主に二つに分かれていました。一つ目は、在日日系ブラジル人玉田エミリア美恵さんとJICA（ジャイカ）国際協力機構の永井 妙美さんの、「外国人」とどう接していけばいいか、というテーマに

(二面に続く)

前回のコラムを見てくれていた方はお久しぶり、初めての方は初めまして、何となく交流会に参加し、ついにとFreedom編集会議にも同席し、その場のノリでコラムを書くことになった私です。最初は楽しかったのですが、二回目あたりから段々と飽きてきて書くことが面倒くさくなってきていました。今も面倒くさいと思いながら書いています。でも書くと言ってしまったので書きます。

いや、最初は一回書いて終わりとか思ってたんですよ、まさか続き物だなんて思わなかったんですよ。でも書くと言ってしまったので書きます。今回は何について書くのかということですが、前回の最後に言っていたネットの使い方についてです。ああ、前回のことなんてとっくの昔でもう忘れてしまっている方がほとんどだと思いますので、というかこんなことの為に脳の記憶領域を使用するのはとてももったいないことなので忘れて下さってよろしいので、今簡単に前回のあらすじを説明しておきます。

シンポジウムに行ったけどネットは危ないって話ばかりでつまらなかった → 危ないって言うなら危なくない使い方を教えろよ → そうだよ大人は子供に使い方を教えるべきなんだ、です。わかりづらかったのなら申し訳ありませんが本当に大体こんな感じです

では本題に入りましょう。ネットの危なくない、もとい、正しい使い方ですが、まず危なくない使い方を見ていきましょう。簡単なものと言えば「危険なサイトに行かない」。まあ、基本中の基本ですね。危険なサイト、というのは具体的に言えば外国語で書かれているサイト、エロサイト、出会い系サイト、とか。……例えるなら、繁華街に遊びに行つて、繁華街からはずれた場所にある怪しげな路地裏に、よく知らない人が入るのは大変危険なことです。でも、そういう路地裏に住んでる人間

が入りすることは大丈夫です。そう私のようにね。

要するに君子危うきに近寄らず、危ない所には近づかなければいいのです。もし行って何かトラブルに巻き込まれれば自業自得です。最初から近づかなければトラブルなんて巻き込まれません。次に正しい使い方ですが、掲示板等では下手なことは言わないようにしましょう。例えば個人情報、主に住所とか、名前とか通う学校・会社とか、特定されますから。特定された暁には見事晒(さら)されお祭り騒ぎが勃発します。あなたの家の電話は24時間鳴り響きポストには恨みつらみを綴った手紙がすし詰めに押し込まれ、外を出歩くことに恐怖心を抱くようになるでしょう。盛りすぎたようにも見えますが、ありえない話ではないのでご注意ください。後は相手を煽(あお)るようなことは言わないようにしましょう。相手が見えなくても確かに向こう側に存在しています。むかつくことを言われればキレます。ネットも現実も遠くと繋がっている、ということを除けばたいして変わりません。

最後に。ネットと現実あまり変わらないと言いましたがネットより現実のほうが大切ということは宣言しておきます。ネットで言う愚痴より居酒屋で一緒に酒を飲みながら零(こぼ)す愚痴のほうが遥かに楽しそうだと思いますよ。それでは皆さん、さようなら。

※ UN権兵衛さん、長期連載(!!)お疲れさまでした。◆最終回の掲載にあたり、今年の各スタッフ校からは「『面倒くさい』なんて書かないで〜」「高校生がエロサイトとか行ったらあかんやろ〜」「居酒屋で楽しくしゃべるイメージはわかる〜」等の意見がありました。◆法律と「18禁」は守るのが当たり前です(念のため)。◆かなり「変化球」好きで、ユニークな意見も披露してくれた権兵衛さんですが、「人」への思いは熱いみたい。ネットでも現実でも「人権」は大切なキーワードです。皆さんからのご意見もお待ちしています。(編)

更には、こんなことも仰っていました。「日本で怒る時は、あれはダメ!とか言つて怒りますが、海外では、くの方がいいんじゃない?」と言って怒らず、勧めることが大切!だそうです。このように、日本では当たり前とされている価値観が、海外だとかなり違うことだつて普通にあるので、私が、どんな人だろうと関係なく接していきけるような人になろう!と改めて考えるきっかけとなりました! 二つ目は、他校との交流です。ほとんど初めて出会った人と一緒に、協力をして豚汁を作るグループと、おにぎりを作るグループに分かれて調理をして出来たものを食べながら交流して、その後に自



己紹介も合わせて、高校でやっている人権についての活動を一校ずつ、紹介しました! 最後に、人権についての話を聞いて深く考えたのは、中学以来なので、心から楽しめた高解研に参加してよかった!と思いました! (奈良大学附属高校 吉村 拓紀)

奈良大学附属高校で、人権教育講演と映画鑑賞が実施されました! 二〇一四年五月一日に奈良大学附属高等学校で実施された、人権教育講演と映画鑑賞についての報告を致します。講演と映画の共通したテーマは、「車椅子バスケットボール」です! 人権教育講演では、元Jリーガーで車椅子バスケットボール日本代表として、二〇〇〇年から、二〇一二年まで、パラリンピックはシドニー、アテネ、北京、ロンドンと四大会連続出場をし、他にも国際大会や個人タイトルで多くの成果を挙げた、京谷 和幸(きやうや かずゆき)さんに来ていただきました。京谷さんの話の中では、「夢、出会い、感謝」という三本柱のキーワードを使われていました。「夢」は、目標を定め、今やるべきことを精一杯頑張り、絶対に諦めないこと。

高校生の人権広報誌 "Freedom" 第16号(2014年10月11日発行) 発行 奈良県高等学校人権教育研究会 〒630-8133 奈良市大安寺1-23-1 奈良県人権センター内 TEL 0742(62)5555 FAX 0742(62)5568 E-mail kodokyo@kcn.ne.jp HP http://www1.kcn.ne.jp/~kodokyo/ ※ご意見・ご感想や投稿などは、各校人権教育担当の先生または上記までお寄せください。 ※本誌のバックナンバーは、高人教ホームページの「活動報告」にて閲覧できます。(「高人教」で検索してください) ※本誌の発行は奈良県教育委員会の事業委託を受けています。

ざっくりとであります。このようにことを仰っていました。映画鑑賞の方では、松山ケンイチ主演の『ウイニング・パス』。この映画では、楽しい青春の時間を過ごしていた男子高校生である主人公が突然の事故で車椅子生活を余儀なくされたところがある日落ち込んでいた彼が車椅子バスケットボールと出会い、それを通じてどのように立ち直っていったのか?というあらすじです。(なんと、講演された京谷さんが車椅子バスケットボール指導をされたそう、映画の中にも少し登場されていました!) 最後になりましたが、今回の講演と映画鑑賞を通じた私の感想で締めたいと思います。明日がどうなるか。そんなことは分からない。だけれど、起こってしまったことは、どうあがいても変わらないから、今を生きることに。障害を乗り越え、更にそれを認める勇氣。これらは、一見して難しいが、一番生きる上で大切さを感じたい。だって、同じ命、生きる意味だって同じなのだから。(奈良大学附属高校 吉村 拓紀)